カリキュラム・教材に関する情報収集（26 事例）

特別支援学校高等部の生徒等を対象とする
職業教育・社会生活教育に関わる既存のカリキュラム・教材に関する情報収集

目次

就職活動に関連する教材事例.....2
知的障害・発達障害の人たちのための 見てわかる社会生活ガイド集.....2
現場発！知的・発達障害者の就労自立支援.....6
みんなのライフキャリア教育.....9
自立活動の授業 de ライフキャリア教育.....12
就労移行支援.....14
健康管理に関連する教材事例.....17
改訂新版 くらしに役立つ保健体育.....17
知的・発達障がい者の感染症対策.....21
知っておきたい　知的障害者の医療と保健衛生[基礎編].....23
働くあなたの健康管理ハンドブック.....25
介護の仕事に関連する教材事例.....27
介護職員初任者養成研修科（知的障がい者対象）（3 か月）.....27
介護初任者研修.....29
山形県障がい者対象訓練　～介護施設でのお仕事～.....31
介護職員初任者研修課程テキスト　ふりがな付　全 3 巻セット.....33
パソコン活用に関連する教材事例.....36
知的障害特別支援学校の ICT を活用した授業づくり.....36
発達障害のある子供たちのための ICT 活用ハンドブック.....40
研修情報・ICT ガイドブック.....44
知的・発達障害のある子のプログラミング教育実践.....47
在宅型パソコン訓練.....53
『やってみよう！パソコンデータ入力』.....55
生成 AI などの活用事例.....57
「知的障害特別支援学校中学部における生成 AI の理解と学びへの活用に関する教育実践」.....57
八王子市立上柚木中学校 特別支援教室.....58
兵庫県立氷上特別支援学校 事例.....59
全国国立大附属特別支援学校調査報告.....61
タッチパネルや視覚的タイマーで生活リズム支援.....62
学習にモバイル機器を活用.....63

就職活動に関連する教材事例

知的障害・発達障害の人たちのための 見てわかる社会生活ガイド集

名称	知的障害・発達障害の人たちのための 見てわかる社会生活ガイド集
作成者・提供者	「見てわかる社会生活ガイド集」編集企画プロジェクト 編著 公益財団法人 明治安田こころの健康財団 協力 株式会社ジアース教育新社
対象者	働く知的障害や発達障害の人たち
前提知識	特になし
学習目標	就労そのもののスキルではなく、「仕事を長く続けるために必要な『生活の安定』」を維持できるようになることを目標とする。 **生活管理能力の向上:** 健康管理、金銭管理、家事など、働き続けるための土台となる生活スキルを身につける。 **トラブル回避と対処:** 一人暮らしや結婚など、ライフステージの変化に伴うトラブル（お金のトラブルなど）を未然に防ぐ知識や、対処法を知る。 **自己決定:** 「何が大切で、どうすべきか」を自分で考え、選べるようになる。
学習内容 （構成・目次・概要）	具体的な 14 人の「先輩たち」の体験談（成功・失敗事例）を通して、社会生活のリアルな課題と解決策を学ぶ。 目次 はじめに 「社会生活ガイド集」について 本書に登場する 3 つのツール ライフステージにおける社会生活の課題 第 1 章　みんなの体験から学ぶ 　職場と家庭で同時に起きた変化で混乱したミユキさん（20 歳） 　ひとりでさみしかったマサキさん（20 歳） 　仕事と家庭の両立が負担になったミカコさん（21 歳） 　友だちとお金のトラブルになったカズオさん（22 歳） 　職場の変化、住む場所の変化で悩んだマサヒロさん（24 歳） 　お金に羽根が生えたように減ってしまうアヤカさん（26 歳） 　突然のひとり暮らしを体験したコウヘイさん（32 歳）

	貯金がすっかりなくなってしまったチアキさん（32 歳） どん底からの脱出､何度でもやり直せるよ！ケンさんの人生(34 歳) 長い単身生活で健康に不安があるサトシさん（46 歳） 自分で選んだ食事サービスで健康管理をしているマサルさん（56 歳） 突然ひとり暮らしになり、お金のトラブルに巻き込まれたゴロウさん（61 歳） お金の管理と健康管理、家事が難しくなったアツコさん（65 歳） 同じ障害のあるヨシエさんと結婚したハルオさん（35 歳） 第 2 章　ひとり暮らし便利帳 （1）暮らしの基本 1. 困ったときはすぐ相談!! 2. ひとり暮らしのＳＯＳ 3. スケジュールの上手な管理 4. ひとりで暮らす　2 人で暮らす 5. お金の管理　契約の手続き （2）日々の暮らし ■衣・食・住とエコ 6. おしゃれ　そして身だしなみ 7. 服やくつ　自分で買って自分で保管 8. 健康につながる　食事 9. 無理をしないで　うちごはん 10. 栄養を考え　上手に外食 11. 備えておこう　病人食 12. そうじをして　健康で安全に 13. 住まいのトラブル　あわてない 14. エコな暮らしを　始めよう ■健康管理 15. 日々の健康　自分で守ろう 16. 備えておこう　救急用品 17. 病院で　みてもらおう 18. 心だって　かぜをひく ■お金 19. お金と上手につきあう 20. あなたのお金はどこから？ 21. 1 か月いくらかかるか生活費 22. 小づかい帳をつけてみよう

	23. 見えないお金に気をつけよう 24. これであなたも買い物上手 25. さぎ商法に気をつけよう 26. 預金口座・通帳・カード上手に使おう 27. 気をつけようお金のトラブル ■携帯電話とパソコン 28. 携帯電話と上手につきあう 29. ネットと上手につきあう 30. パソコンと上手につきあう （3）暮らしの安全 31. 自分でできる暮らしの安全 32. 貴重品とプライバシーを守ろう 33. 気をつけよう　危険であやしいのは？ 34. 地震や台風にそなえる 35. 女性のひとり暮らし　心配なこと （4）人間関係 36. 大切な人とのきずな（絆） 37. ご近所との良いつきあい 38. 苦情を言われたとき　苦情を言いたいとき 39. 人間関係のもつれ　トラブル （5）余暇と娯楽 40. 楽しく遊べ！大人の暮らし 41. お金をかけずに上手に楽しむ 42. お酒・タバコ・ギャンブル　大人らしい遊び？ 【コラム】こんな余暇活動もあるよ！ 丸の内オフタイム倶楽部 やさしい旅の会 第３章　３つの「もしもストーリー」 A デート代のために借金をしてしまった２人 B 両親の入院で生活・仕事に大きな影響が出てしまったオサムさん C いつの間にかストーカーになってしまったアツシさん 第４章　安心安全３つのキーワード 1　権利擁護 2　犯罪 3　相談支援ネットワーク 「見てわかる社会生活ガイド集」編集企画プロジェクトおよび執筆分担

学習形態（ページイメージ）	
価格	2,200 円（税込）
備考	https://www.kyoikushinsha.co.jp/book/0205/index.html

現場発！知的・発達障害者の就労自立支援

名称	現場発！知的・発達障害者の就労自立支援
作成者・提供者	髙原浩 著 学事出版株式会社
対象者	特別支援・インクルーシブ教育 小学校・中学校・高校・特別支援教員・教育研究者
前提知識	特になし
学習目標	**「福祉的支援」と「企業就労」のギャップを埋める視点の獲得:** 学校や福祉現場での「支援」が、実際の企業現場では通用しない場合があることを理解し、ビジネス視点での「自立」に必要な支援のあり方を学ぶ。 **就労阻害要因（ボトルネック）の発見と解消:** 単なるスキル訓練ではなく、その人の就労を妨げている本質的な課題（ボトルネック）を見極め、それを乗り越えるための具体的な評価・指導方法を習得する。 **青年期の自立に向けた心構え:** 学齢期から青年期（就労）への移行において、本人や支援者が持つべきマインドセット（心構え）や、社会人として求められる「普通」の感覚を養う。
学習内容 （構成・目次・概要）	知的・発達障害者の就労自立支援をテーマとした以下の内容 ・就労支援現場の課題: 現在の就労支援現場における問題点の提起 就職を目指す青年の現状: 実際に就職を目指している当事者たちの状況 ・就労自立に向けた考え方: 自立を目指すための基本的な姿勢や、支援者が持つべき視点（「普通」の議論、「支援の筋」など） ・具体的支援の方法: ボトルネックの発見（人づき合い、情況理解など）や、実生活での指導方法、環境設定の留意点など、実践的な支援スキル ・自立に向けての段階: 身辺生活の自立から消費生活の教育まで、自立へ向けた６つの段階の解説 目次 第１章　どこへたどり着きたいのか １　非科学的就労支援 ２　「自前」～触れられなくなったこと～ ３　発達する障害者 ４　どこへたどり着きたいのか

	■イラストカードその１　健康管理編 第２章　『普通』議論 １　古典的普通 ２　浅～い『普通』 ３　浅い『普通』より、深い『幸せ』 ■イラストカードその２　日常生活管理＆社会生活スキル編 第３章　『支援の筋』～ボトルネックの発見～ １　支援する側の任務 訓練内容の根拠を考える ２　学生と社会人の間にある最大の違いに注目した訓練を ３　ボトルネックの発見（１）（人づき合い・発信編） ４　ボトルネックの発見（２）（人づき合い・望まぬ孤立編） ５　ボトルネックの発見（３）（人づき合い・情況理解編） ６　ボトルネックの発見（４）（人づき合い・生活特徴編） ■イラストカードその３　基本的労働習慣編 第４章　青年期に向けて １　キャリア教育 ２　青年期の心構え　支える側へ ３　折り合う力 ４　実生活で指導する　～ＳＳＴの落とし穴～ ５　支援の前提 ６　生産性 ７　自立に向けての６段階 （１）身辺生活の自立 （２）集団生活への参加 （３）社会生活の理解と参加 （４）生活の常識と技術の習得 （５）生産人としての自覚と行動（知行一致） （６）消費生活の教育 ■イラストカードその４　職業適性・専門知識編 第５章　環境と支援の留意点 １　環境設定 「習うより慣れよ」を実践できる支援環境 ２　就労自立に向けて　指導支援の勘どころ 支援者として（１）　感じる→寄る→関わる 支援者として（２）　「ハッと感じる」べきところ ヤマアラシのジレンマ

	目的の共有 自己コントロール力 忍耐力（苦手への対処） 出力調整 応じて止まる（動く）こと 聴くこと（聴いて分かること） 訊くこと（質問すること） 対人関係 集中力・持久力 注意力（選択、持続、転換、配分） 記憶 関係理解 時間と人の管理 発達段階（社会性） 3　思考と行動の起点 おわりに
学習形態（ページイメージ）	
価格	1,760 円（税込）
備考	https://www.gakuji.co.jp/book/b10034370.html

みんなのライフキャリア教育

名称	みんなのライフキャリア教育
作成者・提供者	編著：文部科学省関連プロジェクト協力執筆陣（詳細は明治図書 IIP 参照） 発行：明治図書出版株式会社
対象者	特別支援学校（中学部・高等部）、高等学校、キャリア教育に関わる教員、進路指導担当者
前提知識	特になし
学習目標	本書は、生徒に直接スキルを教える教材というよりも、教員がキャリア教育を体系的に設計・実践できるようになることを目標としている。 **キャリア教育の本質理解** 「進路指導」ではなく、「生き方の教育」としてのライフキャリアの概念を理解する。 **学校全体での体系化** 単発授業ではなく、学年間・教科間を通じた一貫したキャリア教育を設計できるようになる。 **自己理解・社会理解の支援** 生徒が ・自分を知る ・社会を知る ・将来を描く ことを支える指導方法を身につける。 **多様な進路への対応** 就職・進学・福祉的就労など、多様な進路に応じたキャリア形成支援の視点を獲得する。
学習内容（構成・目次・概要）	**1. ライフキャリア教育の理論的整理** ・キャリア教育の定義 ・「ライフキャリア」という視点 ・学習指導要領との関連 ・資質・能力との接続 → キャリア教育を「行事」ではなく「教育課程の中核」に位置付ける考え方を示す。 **2. 発達段階に応じたキャリア形成** ・小学校段階 ・中学校段階

	・高等学校段階 それぞれの段階で育てる力（例：自己理解・協働・責任感・職業観など）を整理。 特別支援教育においても応用可能な構造になっている。 **3. 具体的実践事例** ・総合的な学習の時間での実践 ・教科横断型の取り組み ・地域連携型学習 ・職業体験の設計方法 実践例を通して、 「どのように問いを立てるか」 「どのように振り返らせるか」 が具体的に示されている。 **4. 振り返りとポートフォリオ** ・キャリア・パスポートの活用 ・自己評価の方法 ・将来設計の言語化 → 生徒の「成長の可視化」に重点。
学習形態（ページイメージ）	・理論解説＋実践事例紹介型 ・校内研修テキストとして活用可能 ・教員のカリキュラム設計資料として使用 ※直接的なワークブック形式ではなく、指導者向け実践ガイド型書籍。 

	 仕様:A5 判 132 頁
価格	出版社サイト参照
備考	https://www.meijitosho.co.jp/detail/4-18-007229-3 ・キャリア教育を「進路決定」から「人生設計」へ拡張する理論書。 ・特別支援学校高等部における「職業教育・社会生活教育」を、より包括的な「ライフキャリア教育」に再構成する際の理論的土台として活用可能。 ・学校全体の教育課程編成との接続を検討する際に有効。

自立活動の授業 de ライフキャリア教育

名称	自立活動の授業 de ライフキャリア教育
作成者・提供者	編著・編集：明治図書出版編集部ほか 発行：明治図書出版株式会社
対象者	特別支援学校の教員、小学校・中学校・高等学校の自立活動担当者、キャリア教育やライフスキル教育に関心のある支援教育関係者、 とくに、障害のある児童生徒のライフキャリア形成を自立活動の授業で支援したい教員向け。
前提知識	未経験教員でも実践例から学べる構成ではあるが、自立活動の基本的な構造および指導方法、キャリア教育の概念・基本用語があれば導入しやすい。
学習目標	自立活動（通級・障害支援等を含む）でキャリア教育の視点を具体化するための実践ガイド。 **「暮らす力」「働く力」「楽しむ力」を育てる視点を統合** ライフキャリア教育を自立活動の授業に位置付ける。 **実生活と結びついた目標設定** 児童生徒が自分の価値観・興味・生活の基盤を見つめ、進路・日常生活を意欲的に描く力を育成。 **支援の連続性と段階性** 発達段階・個々の支援ニーズに応じて、自立活動とキャリア教育の関連を設計。 **実践の評価と振り返り** 授業デザイン → 実施 → 振り返り → 次の支援へつなげるサイクルを確立。
学習内容 （構成・目次・概要）	（構成・目次・概要） **序章　ライフキャリア教育と自立活動** ・自立活動の目的・性格 ・ライフキャリア教育の位置づけ ・「暮らす・働く・楽しむ」をつなぐ視点 → 理論と実践の接続フレームを提示。 **第１章　キャリア発達の視点** ・発達段階に応じたライフキャリアの概念 ・個別支援計画との接続 → キャリア形成の指導目標を自立活動に明示。 **第２章　授業計画と単元設計**

	・自立活動単元例 ・目標・評価・授業構成の設計 → 生徒のライフキャリア視点に基づいた授業設計方法。 **第３章　実践事例** ・活動例： – 日常生活スキル（整理・計画・健康・交通など） – コミュニケーション – 職業関連活動（労働・役割・社会参加） ・多様な障害・特性への対応 → 具体的な学習課題・手立て・支援ポイントを提示。 **第４章　振り返り・評価・ポートフォリオ** ・振り返りツールの活用 ・行動目標の可視化 ・保護者・他教科との共有方法 → 学習の継続と拡張に必要な支援管理法。
学習形態 （ページイメージ）	校内研修・教員研修テキストとして最適 ワークブックではないが、授業改善に即使える具体例集 
価格	出版社サイト参照
備考	https://www.meijitosho.co.jp/detail/4-18-193711-9

就労移行支援

名称	就労移行支援
作成者・提供者	株式会社ウェルビー
対象者	企業等で働きたい 18 歳以上 65 歳未満の障害や難病のある方 ＊WIT は知的障がいのある方「専用」のプログラムではないが、知的障がいのある方も利用可能で受講者も多い
前提知識	特になし
学習目標	企業等で働きたい障害のある方に対して、働くために必要な知識と能力を高める。 **IT スキルの向上:** タイピングや Microsoft Office 製品の操作スキルを、基礎から応用まで習得 **資格取得:** MOS（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）や簿記などの資格取得を目指せるレベルまでスキルアップを図る **実務対応能力:** 事務職などで求められる実践的なスキルを養い、リモートワークなど多様化する働き方に対応できる人材を目指す
学習内容 （構成・目次・概要）	実践的な職業訓練から、就職活動の具体的な対策まで幅広くカバー **オフィスワークシミュレーション（企業実践訓練）** センターを「仮想の会社」に見立て、利用者が「総務課」「企画課」「庶務課」などの部署に所属し、実際の業務に近い作業を行う。 **総務課:** 電話応対（内線・外線）、ビジネス文書作成など。 **企画課:** イベントの企画・運営、チームでの話し合いなど。 **庶務課:** 備品管理、書類のコピー・製本、郵便物の仕分け、軽作業など。 これらを通じ、パソコンスキルだけでなく「報告・連絡・相談（ホウレンソウ）」や「チームワーク」を体得する。 **PC スキル訓練「WIT (Welbe IT Training)」** 独自の e ラーニングシステムを使用した PC 訓練 Word、Excel、PowerPoint の基礎から応用、タイピング練習などを、自分のレベルに合わせて個別学習形式で進める。 **ビジネスマナー・コミュニケーション** 挨拶、身だしなみ、敬語の使い方などの基礎マナー。

	SST（社会生活技能訓練）やグループワークを通じ、職場での対人関係スキルを磨く。 **セルフケア・自己分析** 自分の障害特性の理解、ストレスマネジメント、生活リズムの安定化など、長く働き続けるための土台作りを行う。 **就職活動サポート** 応募書類の添削、模擬面接、ハローワークへの同行など。 【カリキュラム】 土台となる力 グループワーク ソーシャルスキル・コミュニケーション・チームワーク ビジネスマナー 社会人の共通ルール 就職活動プログラム よりよく働く力・働く機会を得る力 仕事のスキル パソコン訓練 PC 実務能力・タイピング・PC 基礎・WIT (Welbe IT Training) ベーシックトレーニング 作業能力（組み立て・構成する、正確さを要する、速さを要する、学習・習熟が必要な、計数のある、判別・判断する、巧緻性を要する、立って作業する、工程のある） 企業で生きる力 オフィスワークシミュレーション 会社で仕事をする力（軽作業、各種事務、相手に伝える、生み出す・協力する、情報を整理する）
学習形態 （ページイメージ）	IT スキル向上プログラム「WIT(Welbe IT Training)」

	
価格	負担上限月額 生活保護受給世帯・市町村民税非課税世帯　0 円 市町村民税課税世帯（所得割 16 万円未満）　9,300 円 上記以外　37,200 円
備考	https://www.welbe.co.jp/service/job_support/

健康管理に関連する教材事例

改訂新版 くらしに役立つ保健体育

名称	改訂新版 くらしに役立つ保健体育
作成者・提供者	明官 茂／監修 株式会社 東洋館出版社
対象者	特別支援教育高等段階
前提知識	特になし
学習目標	学習指導要領に示されている内容を網羅的に学習しながら、「将来の生活につながる」をコンセプトに学習内容を精選し、各領域をバランスよく学べる。 **体育実技編：** 幅広く競技の種目について紹介しながら、ルールやきまり、学習の進め方などを解説、また体育理論編で運動やスポーツ全般の文化や知識、技能を学ぶことで、将来の余暇生活の充実に資する内容となっている。 **保健編：** 自らの心身の発達を学び、病気やけがを予防するために必要なことや、喫煙や飲酒などによる身体へのダメージ、また心の健康を守る術についても調べたり、考えたりする内容となっている。心身共に健康で充実した生活を実現するための基礎・基本を学ぶ。
学習内容 （構成・目次・概要）	保健体育を学ぶみなさんへ この本の使い方 第 1 章体育理論編 ①運動やスポーツの多様性 1 運動やスポーツの必要性と楽しさ 2 運動やスポーツとの多様なかかわり方 3 運動やスポーツの楽しみ方 ②運動やスポーツの効果・学び方、安全な行い方 1 運動やスポーツの心と体への効果 2 運動やスポーツの学び方 3 運動やスポーツの安全な行い方 ③文化としてのスポーツの意義 1 スポーツの始まりと歴史 2 国際的なスポーツ大会の意義と役割 3 人々を結びつけるスポーツ

	第２章体育実技編 １体つくり運動 ２器械運動 ３陸上運動 ４水泳 ５球技 ６武道 ７ダンス 第３章保健編 ①私たちの生活と健康 １健康の考え方 ２健康と運動 ３食事と健康 ４休養と健康 ５喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 ②心身の発育・発達と心の健康 １体の発育・発達 ２心の発育・発達 ３心と体の関係とストレス ４欲求と適応機制 ③けがの防止と応急手当 １けがの原因と防止 ２交通事故の原因と防止 ３自然災害への備えと対応 ４応急手当とその方法 ④病気の予防 １生活習慣病とその予防 ２感染症とその予防 ３保健機関の役割と利用 ４医療機関の役割と利用 ⑤私たちの生活と環境問題 １大気汚染（空気）と健康 ２水質汚濁と健康 ３環境汚染、環境衛生と健康 ４働くことと健康
学習形態 （ページイメー	

ジ）	 4 休養と健康 学習しよう □ 心身に疲労がたまると、どんな不調を感じるだろうか。 □ 休養にはどんな方法があるだろうか。 課題をつかもう 疲労とはどのような状態のことをいうのでしょうか。 また、疲労を回復するにはどうすればよいでしょうか。 疲労の現れ方 学習や運動、作業などを長時間続けたり、活動しにくい環境にいたりすると、頭がぼんやりしたり、ミスが多くなったり、作業能率が低下してしまったりします。このような状態を疲労といいます。疲労の現れ方は、環境条件などによって異なり、個人差もあります。 疲労には身体的疲労と精神的疲労があり、疲労を回復させずに、学習や運動、作業などを続けると、疲労は蓄積し、病気にかかりやすくなります。また、心の健康を損なったり、事故を招く原因となったりする場合もあります。 疲労の現れ方 気持ちの落ち込み 頭痛 眠け 発熱 浅い呼吸 生体リズム 日内リズム：人間がもっている約24時間周期の生理現象のこと。このリズムが乱れると疲労や睡眠障害をもたらすことがある。 90 調べてみよう 疲労の種類（身体的・精神的）について考えましょう。 疲労の回復方法ついて考えましょう。 睡眠 心身の疲労を回復させるためには、十分な睡眠をとることが必要です。睡眠には、体の傷んだ部分を修復し、抵抗力を高めるはたらきがあります。快適に睡眠をとるためには、日中に適度に体を動かすことや、お風呂にゆっくりと入るなど、心身をリラックスさせることが大切です。また、寝るときには部屋を暗くすることや、寝つきやすい寝具を用意するなども睡眠の質をよくする方法の１つとなります。 〈チェックしてみよう！〉 項目 / あてはまる / どちらでもない / あてはまらない 寝つきはよい方である。 □ □ □ 夜中に目が覚めることはない。 □ □ □ 朝すっきり起きられる。 □ □ □ 睡眠時間は足りている。 □ □ □ 日中はねむくならない。 □ □ □ スマホ脳疲労 近年、スマホ依存が問題視されています。スマホの使い過ぎにより、考える機能が低下することで物忘れやうっかりミス、集中力低下や感情のコントロールができなくなります。また、脳が疲れることで、自律神経のはたらきが乱れ、心身に不調が起きるとされています。 91

	
価格	1,650 円（税込）
備考	https://www.toyokan.co.jp/products/5317

知的・発達障がい者の感染症対策

名称	知的・発達障がい者の感染症対策
作成者・提供者	株式会社ラーニングスクエア 講師：根本昌彦　国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 研究員、参事（ターミナルケア）、看護師
対象者	障がい福祉サービス施設で働く支援員
前提知識	特になし
学習目標	**専門性の向上:** 障がい者福祉のミッション、支援に必要なスキル・技術、専門能力を学ぶ。 **マインドセット:** 支援現場で働くスタッフ一人ひとりの「働きがい」や「仕事への誇り」を醸成する。 **質の向上:** 結果として、福祉サービスの社会的ステータスや質を向上させる。
学習内容（構成・目次・概要）	**社会生活力の支援:** 知的・発達障がいのある方が、主体的・自立的に生活できるよう支援するためのプログラム（「自分を知る」「出来ることを増やす」「やってみる」というステップの指導法など）。 **障がい特性の理解:** 「強度行動障がい」や「発達障がい」などの特性を正しく理解し、適切な対応方法を学ぶ。 **制度と権利:** 合理的配慮の実際や、子どもを支える制度、虐待防止など、法的な知識や倫理観を身につける。 第１回「知的・発達障がい者の感染症対策の現状 ①知的・発達障がい者の健康の課題 ②おこりやすい感染症 ③感染対策の基本 第２回「感染予防とゾーニング」 ①スタンダードプリコーション（日常の感染対策） ②ゾーニング 第３回「感染症が起こった際の初動パッケージ」 ①初動パッケージ ②ICT（インフェクション コントロール チーム） ③新型コロナ感染症（5 類？？）

学習形態（ページイメージ）	 Web 講義（動画）「15 分で学ぶ」シリーズ: 1 テーマ約 10〜15 分に凝縮されており、隙間時間や会議前の短時間研修として利用可能。 じっくり学ぶシリーズ: より深い専門知識を学ぶための長尺講座。 Live ゼミ（リアルタイム研修）: Zoom 等を使用したライブ配信型の講義。講師に直接質問ができたり、他の受講者とグループワークを行ったりする参加型研修。 ※当日参加できなくても、後日録画配信で視聴可能なケースが多い。 障害者支援に携わる職員向けのオンライン研修サービス。 初任者から管理者まで階層別に体系化されたカリキュラムが用意されており、障がい特性やリスクマネジメントなどの実務知識を、15 分の短時間動画や講師による生講義（Live ゼミ）を通じて効率よく学ぶことができる。
価格	サポーターズカレッジ全体の会員登録で Web 講義やオンライン研修が受講可能。法人単位の年間契約。 初期登録料　11,000 円（税込） 年間受講料　165,000 円（税込）
備考	サポーターズカレッジ研修カリキュラム https://live-learning.jp/sapokare/curriculum/ （健康管理の他例） 「新型コロナウイルスと障害者支援のこれから」「感染症予防」「健康を維持するためのカラダの作り方」「刺咬害虫の対策」「お口の中をのぞいてみましょう！〜なぜ口腔ケアが必要なの？〜」「身につけよう！ストレスマネジメント力」「思春期のメンタルヘルスと支援」

知っておきたい　知的障害者の医療と保健衛生[基礎編]

名称	知っておきたい　知的障害者の医療と保健衛生[基礎編] －正しい理解と適切な支援のために－
作成者・提供者	公益財団法人 日本知的障害者福祉協会
対象者	知的障害援助専門員
前提知識	特になし
学習目標	知的障害のある方への支援において不可欠な「医療」と「保健衛生」に関する基礎知識を習得し、正しい理解に基づいた適切な支援ができるようになることを目標とする。 具体的には、以下の知識を身につける **発生要因の理解:** 知的障害の原因や予防に関する基礎知識。 **健康管理:** 日常的な健康観察のポイントや管理方法。 **緊急対応:** 急な病気や事故が起きた際の適切な対応スキル。 **リハビリ・倫理:** リハビリテーションの基礎や、生命・医療倫理についての考え方。
学習内容（構成・目次・概要）	生活支援や就労支援とは異なり、より身体的・医学的なケアに焦点を当てた内容です。具体的には以下の 3 点が学べる **1. 「言葉にできない不調」に気づく観察眼** 知的障害のある方は、痛みや体調不良をうまく言葉で伝えられないことがあります。 ・日常の観察ポイント: 表情、顔色、食欲、睡眠などの変化から、病気のサインを早期に発見する方法。 ・健康管理: 日頃からどのような点に注意して健康状態をチェックすべきか。 **2. 緊急時の対応と事故防止** 現場で起こりうる突発的な事態への対処法です。 ・急性症状への対応: てんかん発作が起きた時や、急に具合が悪くなった時の具体的な処置。 ・事故対応: 誤飲や怪我などの事故が起きた際の応急処置と、それを防ぐための予防策。 **3. 医学的背景と倫理** 支援者として知っておくべき基礎知識です。 ・障害の基礎: 知的障害の発生原因や予防に関する医学的な基礎知識。 ・リハビリと心理: 身体的なリハビリテーションや、心理療法がどのように関わるか。

	・医療倫理: 医療的ケアが必要な場面での、本人の尊厳や意思決定をどう守るかという倫理観。 目次 第１章　知的障害の発生原因と予防 第２章　健康管理と観察 第３章　急性症状・事故への対応 第４章　知的障害のリハビリテーション 第５章　心理療法と療法計画 第６章　知的障害と生命・医療倫理
学習形態 （ページイメージ）	 ●B５判 ●136 ページ/２色刷
価格	1,400 円（税別）
備考	http://www.aigo.or.jp/menu01/archives/001000other/004476.html

働くあなたの健康管理ハンドブック

名称	働くあなたの健康管理ハンドブック
作成者・提供者	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター
対象者	知的障害者
前提知識	特になし
学習目標	**知的障がいのある方**を主な対象として、以下のことを実践できるようになることを目標とする。 **健康管理の習慣化:** 日常生活の中で、自分でできる健康管理の方法を身につける。 **生活習慣病の予防:** 成人病（生活習慣病）の予防につながる食事や体重管理の知識を得る。 **疲労回復:** 働き続けるために必要な、疲れをとるための「運動」や「体の休め方」を知る。
学習内容 （構成・目次・概要）	知的障害者が就労生活を維持するために必要な、日常の健康管理スキルを習得することを目的としており、 具体的には以下の項目が含まれる。 **体重管理:** 「あなたの体重で気をつけること」 **栄養管理:** 「5 色の食事」（バランスの良い食事）、「あなたの年齢と 5 色の食事」、「食事で気をつけること」（成人病予防など） **生活習慣:** 「運動と体の休めかた」（疲労回復） **身だしなみ:** 「衛生とみだしなみ」 **支援者向け:** 指導のポイントなどをまとめた「支援者の方へ」 目次 このハンドブックを読む皆さんへ １．あなたの体重で気をつけること あなたの身長と体重は？ ２．５色の食事 ５色の食品を食べよう どれくらい食べればよいのでしょう？ おかしやくだものはどれくらいだったら良いのでしょう？ ５色の食事を作ろう ３．あなたの年齢と５色の食事 10 才～29 才のあなたが「特に気をつけること」は？ 30 才～39 才のあなたが「特に気をつけること」は？ 40 才～59 才のあなたが「特に気をつけること」は？

	4．食事で気をつけること 買い物をするときに気をつけよう 食品のしまいかたに気をつけよう よいつくりかた・もりかたは？ 食事の時間は？ 食べる時に気をつけよう 食べおわってから気をつけよう 5．運動とカラダの休めかた ゆっくりストレッチで疲れをなおそう ふとりぎみをなおそう 体をやすめよう 6．衛生とみだしなみ はみがき みだしなみ 7．支援者の方へ 8．資料 おわりに
学習形態（ページイメージ）	 A4　34 ページ
価格	無償（ダウンロード）
備考	https://www.nivr.jeed.go.jp/research/kyouzai/08_kenkou.html

介護の仕事に関連する教材事例

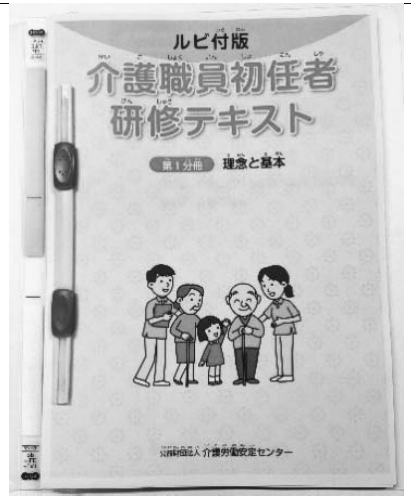
介護職員初任者養成研修科（知的障がい者対象）（3 か月）

名称	介護職員初任者養成研修科（知的障がい者対象）（3 か月）
作成者・提供者	大阪府商工労働部雇用推進室人材育成課委託訓練グループまで
対象者	介護分野での就職を希望している人　介護職員初任者研修課程のカリキュラム日程をすべて受講できる人
前提知識	特になし
学習目標	**介護職員初任者養成研修科（知的障がい者対象）**　（コース No.2） 介護職員初任者研修課程の修了を目的とし、介護従事者としての心構え、自己理解、ストレス対処、コミュニケーションスキルを身につける。 受講者が資格を取ることだけでなく、介護についての関心を深め、就職に対しての意欲向上を目指して研修に取り組む。
学習内容（構成・目次・概要）	**1. 資格取得と専門知識**「介護職員初任者研修」の修了を目標としており、介護職として働くための必須知識を習得する。 **・介護の基本:** 職務の理解、尊厳の保持、自立支援、職業倫理 **・医学的・専門知識:** 老化や認知症の理解、障がいの理解、こころとからだのしくみ、感染症対策、安全衛生 **・制度の理解:** 介護保険制度や障がい者自立支援制度、医療との連携 。 **2. 実践的な介護技術（実技）** 座学だけでなく、実際の現場で必要な介助技術を演習形式で学ぶ **・生活支援技術:** 移動・移乗（車いす等）、食事介助、排泄介助、更衣介助、整容、入浴、手浴・足浴など **・レクリエーション:** 施設で実践できるレクリエーションの企画・実施 **3. 社会人スキルとメンタルケア** 知的障がいのある方が長く働き続けるための、自己管理能力や対人スキルに重点が置かれている **・コミュニケーション:** 職場での人間関係構築、語彙力向上、報告・連絡・相談（ホウレンソウ） **・メンタルヘルス:** 自己理解（強みの発見）、ストレス対処、感情のコントロール **・ビジネスマナー:** 社会人としての基礎マナー、働くことの意義 **4. 就職活動の準備** **・就職支援:** 履歴書・職務経歴書の作成、面接指導、職業人講話 **・現場体験:** 高齢者・障がい者施設での職場見学および 12 時間の職場

	実習（業務体験）
学習形態 （ページイメージ）	**集合訓練:** 受講生が教室等に集まって学ぶ形式 **期間:** 3 か月間（年間定員 10 名） **スケジュール:** 原則として土・日・祝日は休み（平日通学） **2. 学習の構成（全 305 時間）** 座学での知識習得だけでなく、実技や現場実習を組み合わせた実践的な構成 ・学科（座学）：176 時間 職業能力基礎講習（12 時間）：ビジネスマナーや働く意義など 学科（164 時間）：介護の基本、医学的知識、認知症や障がいの理解、制度の仕組みなど ・実技（演習）：87 時間 生活支援技術（移動、食事、入浴、排泄など）やレクリエーションの実践練習を教室で行う ・就職支援：30 時間 履歴書作成、面接指導、コミュニケーションスキル、自己理解ワーク ・職場実習：12 時間 実際の高齢者・障がい者施設に行き、業務を体験 **3. 特徴** 知的障がい者対象: 知的障がいのある方を対象としたコースとして設計 資格取得目標: 「介護職員初任者研修」の修了を目指すカリキュラム
価格	記載なし
備考	大阪府　令和 7 年度 障がいのある方が対象の職業訓練 カリキュラム https://www.pref.osaka.lg.jp/o110110/nokai/e-syougai/syogai_karikyuramu03.html

介護初任者研修

名称	介護初任者研修
作成者・提供者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ　北海道事業本部
対象者	（研修場所による）知的障がいのある方・どなたでも・道立札幌高等技術専門学院の受託講座の受講生
前提知識	特になし
学習目標	(1)　在宅サービスの中核となる介護職員の養成を図り、超高齢社会への対応の一助とする。 (2)　札幌市の知的障がいのある方の介護職員初任者研修については以下の通りとする。 ・障がい者が生きがいをもって地域で暮らすことができる社会の実現 ・知的障がい者の「サービスに受け手から担い手へ」の転換 ・知的障がい者の「新たな就労分野」介護補助業務への挑戦 ・介護職員初任者養成研修修了者としての「社会的な自信」の保持
学習内容 （構成・目次・概要）	介護の基礎知識から実践的な技術まで、以下のカリキュラムを学ぶ 基礎知識（講義）: ・職務の理解、介護における尊厳の保持・自立支援 ・介護の基本（安全確保、リスクマネジメント、職業倫理） ・老化・認知症・障害の理解 ・介護・福祉サービスと医療との連携 実践技術（演習・実習）: ・こころとからだのしくみと生活支援技術（食事・入浴・排泄・移動などの介助方法） ・介護過程の基礎的理解 ・総合生活支援技術演習 その他: ・コミュニケーション技術、振り返り、就業への備え
学習形態 （ページイメージ）	主要テキスト 介護職員初任者研修テキスト 介護労働安定センター発行（札幌市Ａ・札幌市Ｂ・旭川市Ｂ・釧路市・余市町・札幌市Ｃ）

	 介護職員初任者研修テキスト　労協出版会発行（旭川市Ａ） **形式:** 通学（昼間）：昼間の時間帯に通学 講義＋演習＋実習: 座学だけでなく、実技演習や施設見学・実習 **期間:** 3ヶ月～8ヶ月（例：旭川市Ａは3ヶ月、札幌市Ａは8ヶ月） **対象者:** 知的障がいのある方を対象。一部若年無業者対象のコースも設定 **定員:** 各コース20名～25名程度
価格	札幌市Ａ6,048円　札幌市Ｂ5,444円　札幌市Ｃ29,800円　岩見沢市8,425円　滝川市8,425円　旭川市A0円　旭川市Ｂ5,444円　釧路市5,444円　余市町5,462円
備考	ワーカーズコープ北海道事業本部　介護初任者研修　実施一覧 https://workers-coop.com/honbu/hokkaido/2019/02/18/1776/

山形県障がい者対象訓練　～介護施設でのお仕事～

名称	山形県障がい者対象訓練　～介護施設でのお仕事～
作成者・提供者	公益財団法人介護労働安定センター 山形支部
対象者	障がいのある方で、ハローワークに求職の申し込みをしており、就労に必要なスキルを習得して就職することを希望し、公共職業安定所長（ハローワーク）の受講指示、受講推薦又は支援指示を受けた方 ・自身又は支援機関等のサポートにより通学可能なこと ・集合型訓練での受講ができること ・継続して受講できること ・訓練終了後の就職状況調査に協力できること
前提知識	特になし
学習目標	介護とは何かを知って、介護サービスの補助業務ができる基礎スキルを習得する。また、就職に必要な知識等を習得して就労を目指す。 【目指す仕事】介護サービスに係る補助の仕事（具体的な補助業務とは、清掃、シーツ交換、配膳、見守り・話し相手など）
学習内容 （構成・目次・概要）	カリキュラム 介護の基礎知識（13時間） 介護とは、介護施設とは、介護施設利用者とは、介護サービスとは 老化とは、高齢者と健康、認知症によるこころの変化、高齢者に多い疾病 介護補助業務の基本（49時間） 指示の受け方、報連相、利用者の見守り、環境整備(清掃)、移動(杖、車ｲｽでの移動)、食事（配膳、後片付け）、リネン交換、レクリエーション、入浴（注意事項）　等 総合演習　等（12時間） 介護サービスの復習、職場実習（介護の補助業務を見学し、体験） ※まとめの演習と職場実習（現場見学・体験）により、介護補助の仕事を理解する 就職支援　等（10時間） 履歴書の書き方、面接の仕方、ビジネスマナー、コミュニケーション ※就職活動の準備に係るスキル習得を支援
学習形態 （ページイメージ）	【説明・選考会場・訓練会場】山形コロニー就労サポートセンター 【訓練実施機関】公益財団法人介護労働安定センター 山形支部